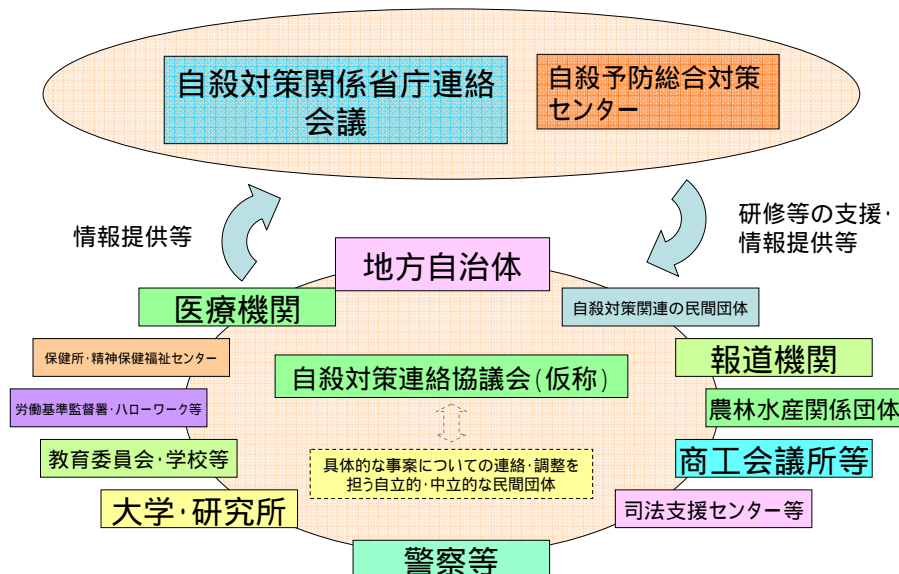


調査研究の推進について

自殺予防総合対策センター長
竹島 正
(国立精神・神経センター精神保健研究所)

1

連携体制イメージ



2

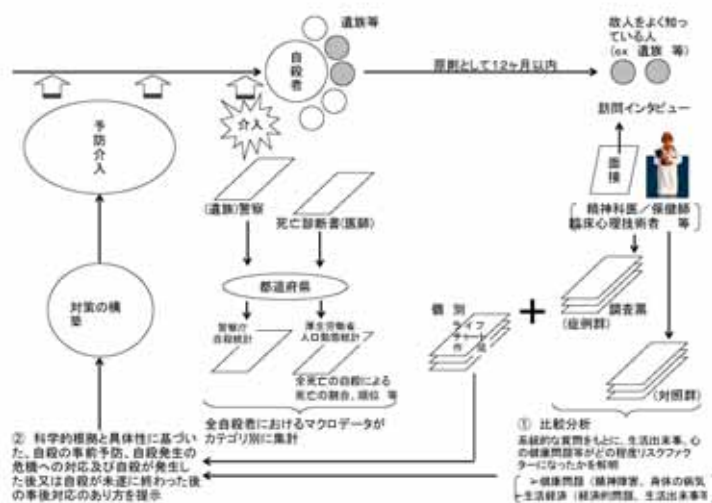
自殺予防総合対策センターHP

「いきる」 <http://www.ncnp.go.jp/ikiru-hp/index.html/>



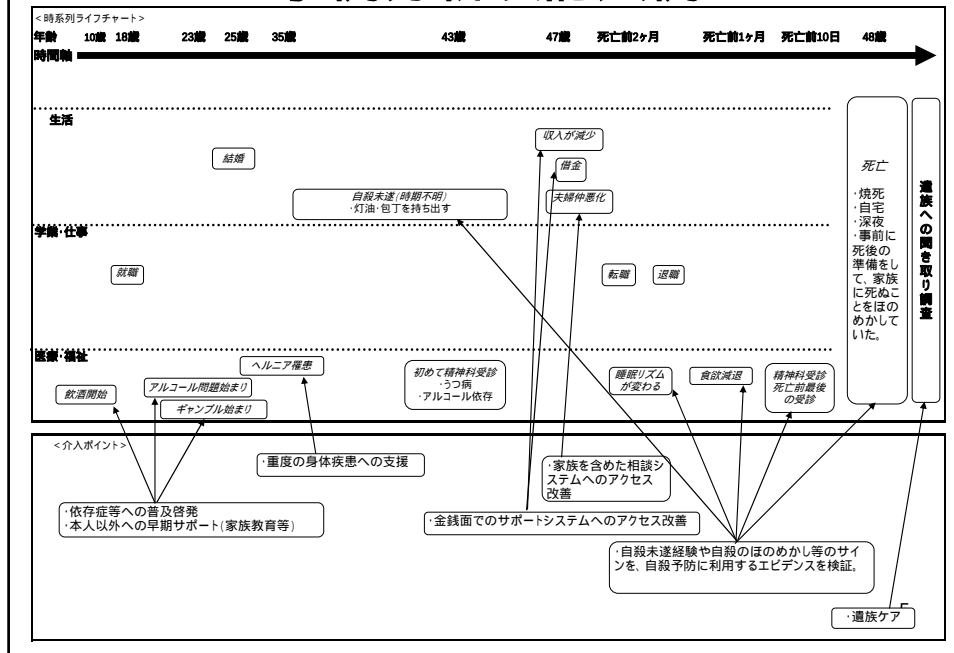
3

心理学的剖検について

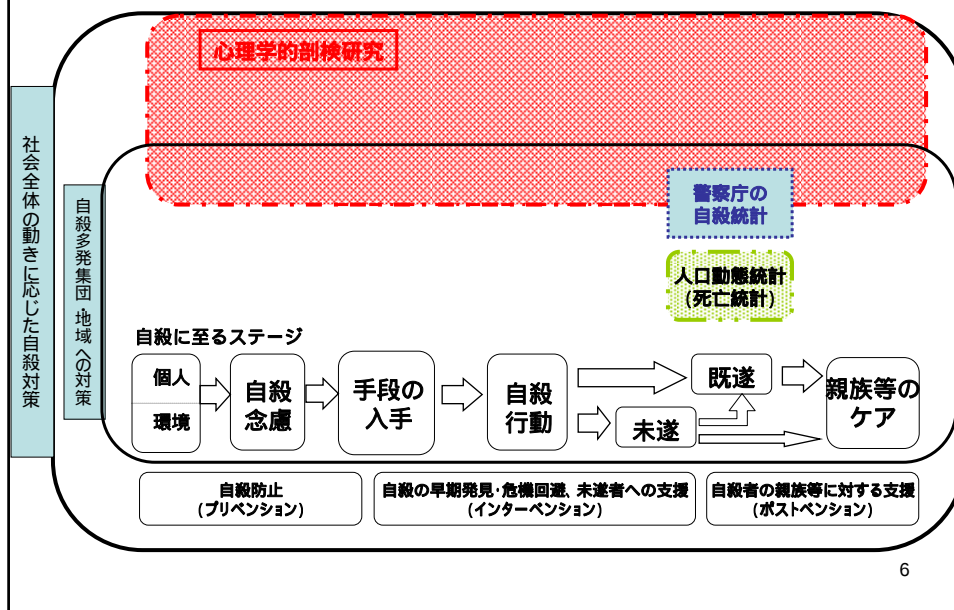


4

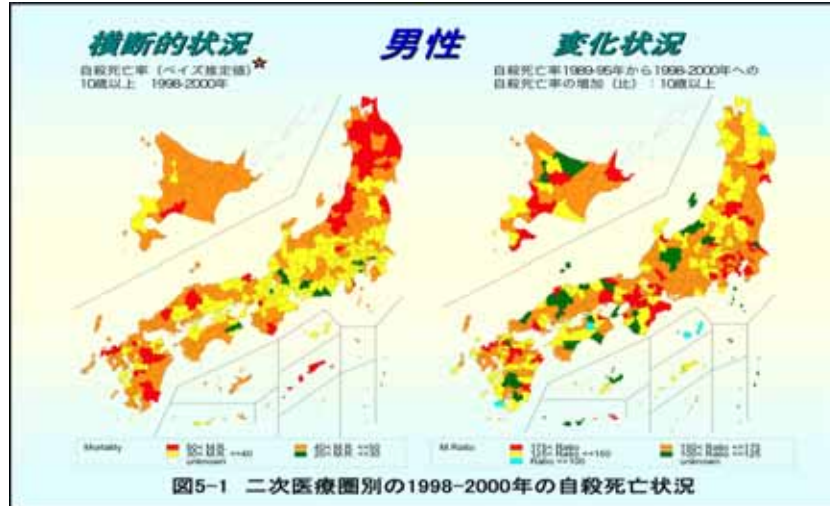
事例分析表記入例



調査研究 / 対策の枠組み



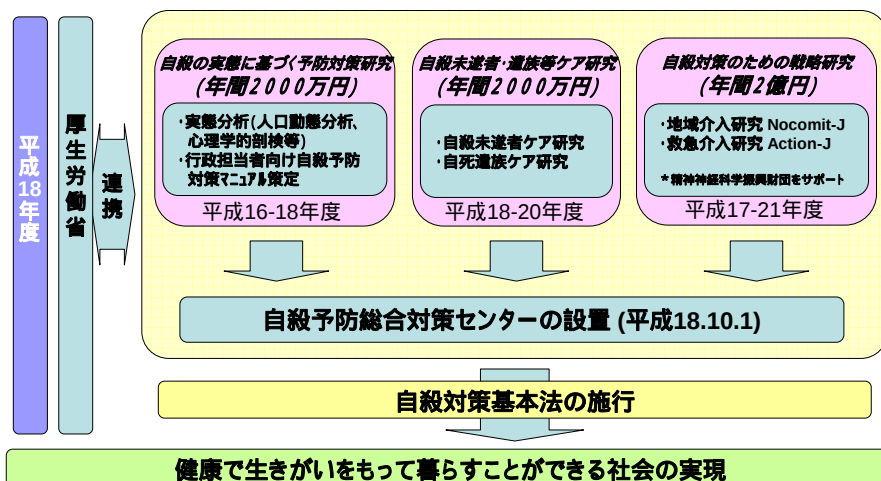
1. 実態把握研究



二次医療圏別の1998-2000年の自殺死亡状況
 いきる自殺予防対策支援ページ掲載資料
 作成者: 藤田利治 (国立保健医療科学院)

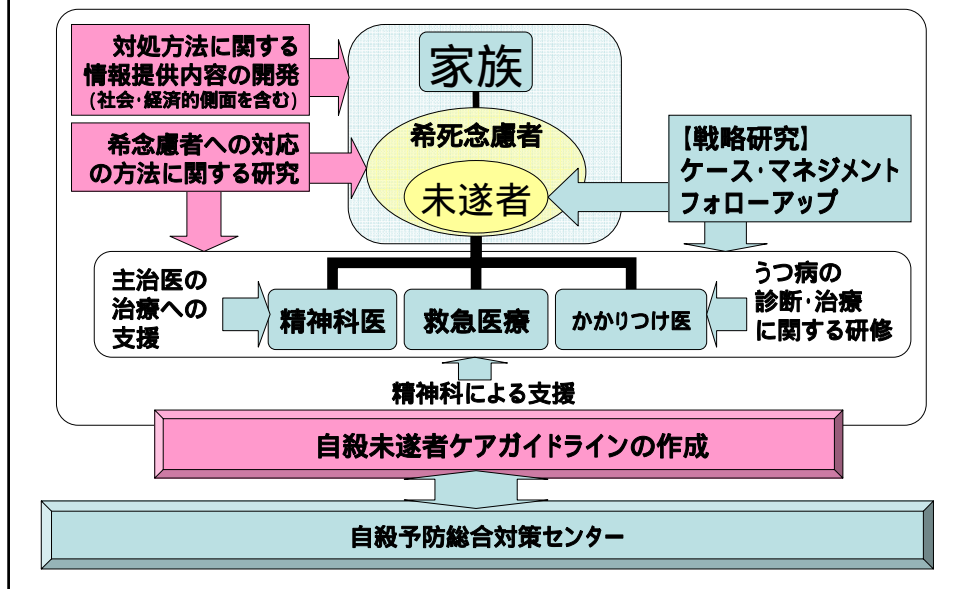
7

調査研究

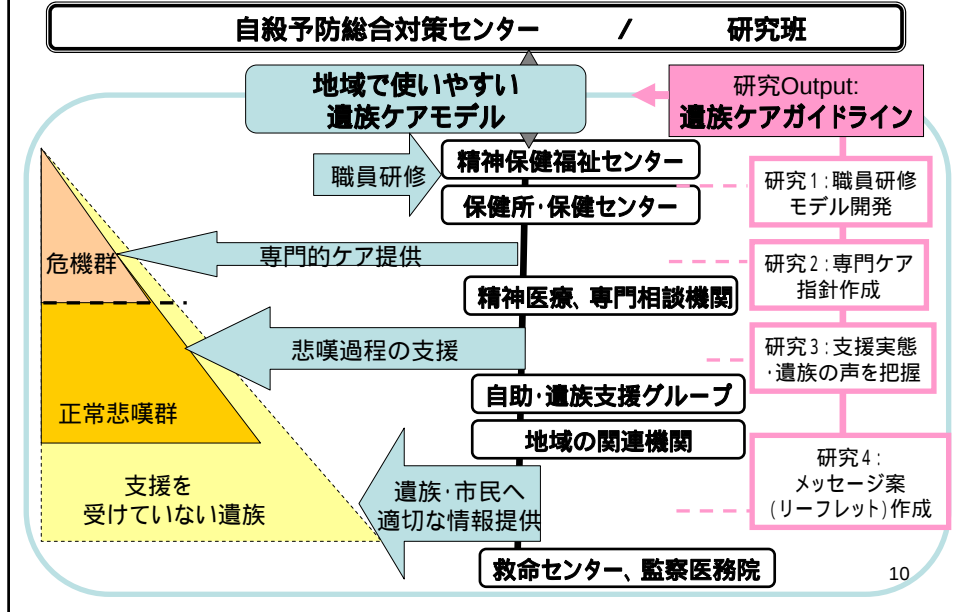


8

未遂者ケアに関する研究



自殺者親族等への支援に関する研究



自殺対策のための戦略研究

- (背景) 自殺死亡率(人口10万対25.3)は世界第10位(G7中第1位)であり、年間自殺者数は3万人を超える。毎日80人以上が自殺で死亡している。
- (目的) 全国各地の先駆的な取り組みの経験を踏まえ、大規模多施設共同研究で効果的な介入方法に関するエビデンスを構築し、今後の自殺防止対策に役立てる。

財団法人 精神・神経科学振興財団による戦略研究の実施: J-MISP

研究成果

地域特性(失業率、人口動態、産業構造、所得格差、社会基盤、保健行政、飲酒量など)は自殺率に大きな影響を与える場合がある。

複合的自殺対策プログラムの自殺企図予防効果に関する地域介入試験: NOCOMIT-J

- 地域特性に応じた1次から3次までの様々な予防対策を組み合わせた複合的自殺予防プログラムを介入地区で実施し、通常の自殺予防対策を行う対照地区と比較して、自殺企図の発生予防に効果があるかどうかを検証する。

自殺未遂の既往は自殺既遂の最大の危険予測因子である。一人の自殺者の背景には10倍を超える自殺未遂者が存在する。

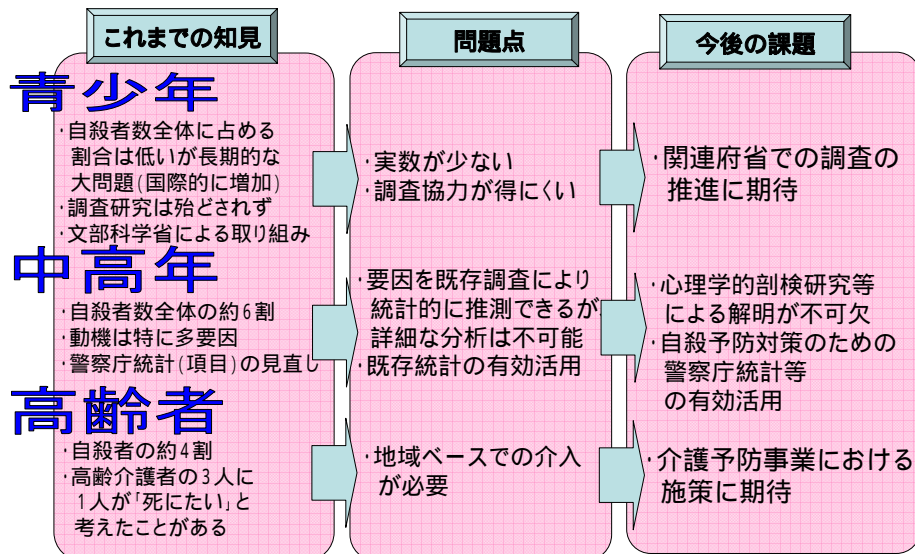
自殺企図の再発防止に対する複合的ケースマネジメントの効果: 多施設共同による無作為化比較研究: ACTION-J

- 救急医療施設に搬送された自殺未遂者に対して、精神的な診断及び教育と共にケースマネジメントを行い、通常の対応と比較して自殺企図再発の防止に効果があるかどうかを検証する。

実効性の高い複合的自殺防止策や自殺企図再発防止法を確立

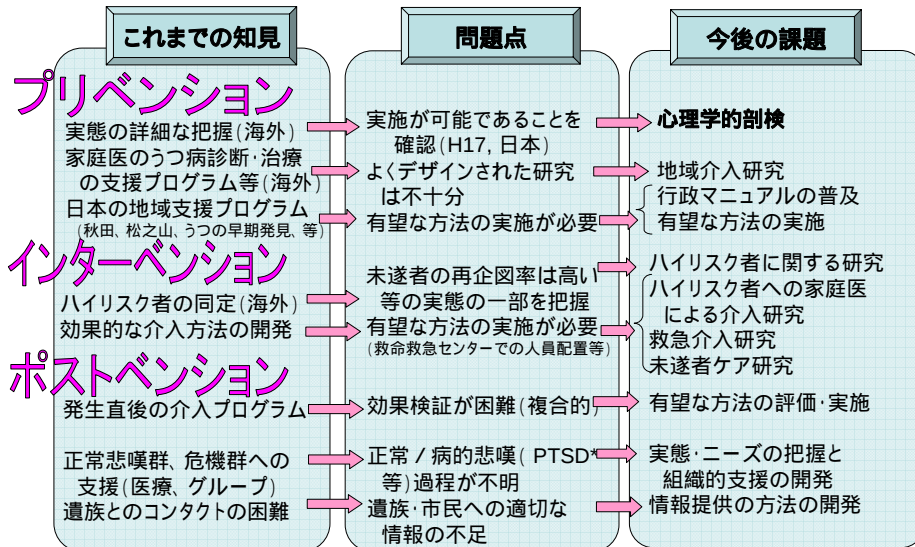
自殺率の減少

ライフステージごとの現状と課題



12

予防対策ごとの現状と課題



*Post traumatic stress disorders 13

政策的研究課題

- 実態把握とモニタリング
 1. 自殺者の心理学的剖検に関する研究
 2. 自殺未遂者の実態調査
 3. 自殺者の親族等の実態、支援のための調査
- 支援研究
 1. 地域集団、特定集団への対策
 2. 自殺未遂者のケア
 3. 自殺者親族等のケア

14

[TOP](#) | [情報発信](#) | [センター長からのメッセージ](#)

研究情報

ここでは、厚生労働科学研究費補助金等による、自殺予防対策に関連した研究報告書が閲覧できます。研究について年度別に報告書がまとめられていますので、読みたい報告書を選んでクリックし、目次を開い。なお、報告書の内容はすべてPDFファイルでの閲覧となっておりますので、[Adobe Reader](#)が必要でない方はダウンロードしてご覧ください。

現在のところ平成16年度に行われた研究のみ閲覧可能ですが、これから順次そろえていく予定です。PDFダウンロードしての不特定多数への配布は行わないようお願いします。

< 内閣府 経済社会総合研究所委託調査 >

- ・「自殺の社会経済的要因に関する調査研究」
研究代表者：渡部 良一(平成17年度)
[平成17年度報告書](#)

< こころの健康科学研究事業 >

- ・「自殺の実態に基づく予防対策の推進に関する研究」
主任研究者：上田 茂(平成16年度)
北井 暁子(平成17年度～)
[平成16年度報告書](#) [平成17年度報告書](#)
- ・「自殺企図の実態と予防介入に関する研究」
主任研究者：保坂 隆(平成16年度～)
[平成16年度報告書](#)
- ・「自殺を惹起する精神疾患の感受性遺伝子の解明」
主任研究者：功刀 浩(平成14～16年度)
平成14年度報告書 平成15年度報告書 [平成16年度報告書](#)
- ・「自殺多発地域における中高年の自殺予防を目的とした地域と医療機関の連携による大規模介入研究」
主任研究者：酒井 明夫(平成14～16年度)
平成14年度報告書 平成15年度報告書 [平成16年度報告書](#)
- ・「感情障害の発症脆弱性素因に関する神経発達・神経新生的側面からの検討並びにその修復機序に生物学的研究」
主任研究者：三國 雅彦(平成14～16年度)
平成14年度報告書 平成15年度報告書 [平成16年度報告書](#)
- < 労働安全衛生総合研究事業 >
 - ・「労働者の自殺リスク評価と対応に関する研究」
主任研究者：川上 憲人(平成14～16年度)
平成14年度報告書 平成15年度報告書 [平成16年度報告書](#)
 - ・「うつ病を中心としたこころの健康障害をもつ労働者の職場復帰および職場適応支援方策に関する研究」
主任研究者：島 悟(平成14～16年度)
[平成14年度報告書要約](#) [平成15年度報告書要約](#) [平成16年度報告書](#) (総合研究報告書)

< 厚生労働科学特別研究事業 >

- ・「Webサイトを介しての複数同時自殺の実態と予防に関する研究」

主任研究者: 上田 茂 (平成16年度)

[平成16年度報告書](#)

- ・「うつ病関連の自殺予防戦略研究課題の提案と評価に関する研究」

主任研究者: 樋口 輝彦 (平成16年度)

[平成16年度報告書](#)

< その他 >

- ・精神・神経疾患研究委託研究費「感情障害の治療のガイドラインを用いた臨床実証的研究」

主任研究者: 本橋 伸高 (平成14～16年度)

平成14年度報告書 平成15年度報告書 [平成16年度報告書](#) (総合研究報告書)

- ・[「メンタルヘルスの取り組み」に関する企業アンケート調査\(平成18年\)\(PDF\)](#)

財団法人社会経済生産性本部 メンタル・ヘルス研究所

Adobe® Reader™ Copyright © 2005 Adobe Systems Incorporated. All rights reserved.

Adobe、Adobe ロゴ、およびAdobe Readerは、Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社)の商標です。

[TOP](#) > [調査研究](#) > 研究情報

国立精神・神経センター 自殺予防総合対策センター

〒187-8553 東京都小平市小川東町4-1-1 電話: 042-341-2712 (内線6300) FAX: 042-346-1884 E-mail: ikiru@ncnp

受付時間: 9:00～17:00

このホームページへのご意見等は自殺予防総合対策センターまでお寄せ下さい。

ただし、当センターでは個人を対象とする「こころの健康相談」や「自殺に関する相談」は行っておりませんのでご了承下さい。